

「Eco列車でいこう!」~第76回 「台北」を旅する(3) (CO2排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです!)

台湾旅行3日目(8月15日)。高温多湿と、発展途上国特有のエネルギッシュな雰囲気になり、飲みこまれ、疲れを覚えます。本日の予定は決まっていないので、ホテルで少し遅めの朝食。散歩がてら近所の雑貨店を覗きにいきました。ユニークな手帳やノートなどをお土産用に買い込みました。

ホテルへの帰り道、床屋さんを発見。イケメンの写真が貼ってあり、「流行的族風 剪髪 200元(約700円)」と書いてあります。少し迷いましたが入店すると、おばさんが「散髪だけでシャンプーは別だけどよいか?」的なことを言ってきました。良心的なお店のようです。おばさんをお店の前のポスターに連れていき、イケメンの写真を指差し、「これにしてくれ」と言うと、納得したようで、チョコチョコと散髪開始です。

20分程で「イケメンもどき」の髪型完成。ちょっと違う気もしますが、まあ満足です。おばさんにお礼を言い、外に出ました。海外の床屋体験は楽しい思い出になりました。

お昼ごはんは「小籠包」を食べようと地下鉄に乗り、繁華街「東門」へ。世界的有名店の「鼎泰豊」は大混雑のために敬遠して、永康街の外れにある、「好公道」へ。

店内は地元客でほぼ満員でしたが、運よく空席を見つけました。台湾ビールを飲みながら待っていると、小籠包の登場です。

小籠包をレンゲの上に乗せて皮の部分を少し破ると、熱々のスープが溢れ出します。やけどに注意して、はらはら言いながら芳醇なスープを味わい、旨みたっぷりの小籠包をほおばります。さすが地元の人気店。納得のおいしさでした。

すっかり満足して、スーパーマーケット「カルフル」でお土産を購入し、おやつは「マンゴーかき氷」。台湾3日目は、少し早めにホテルに戻り休息に当てました。

最終日、台北の新名所「台北101」へ。地上509m、101階建てのこのビルには、ドバイのブルジュ・ハルファに抜かれるまでは世界一の超高層ビルだったとのこと。

その後ホテルに戻り、近くの食堂で台湾最後の食事。中学生くらいの娘さんが愛想よくお手伝い。好感が持てます。メニューを見ると「小籠包」を発見。昨日の昼食で味を占めたこともあり再び注文すると、街の食堂にもかかわらず、肉汁たっぷりの逸品が出てきました。一緒に頼んだ牛骨麺もおいしく、「当たり」の店でした。

旅行社の迎えが来て、免税店へ。その後空港から帰国の途に着きました。

日用品の物価は日本と変わりませんが、外出に関しては抜群のコストパフォーマンスでした。ガイドさんの話では、台湾では共働きが多く、朝食も外で食べるのが多いとのこと。

夜遅くまで屋台街は人であふれ、商店街は22時頃まで店を開けおり、奥の居間では家族がテレビを見ていました。それはまるで、高度経済成長期の日本を見ているようでした。

エネルギッシュな街「台北」。

また行きたくなる、素敵な街でした。

